

ぼくは、「ニライ・カナイの海」というお話を読みました。この本を読んだきっかけは、表紙の絵がとてもきれいな海だと思ったからです。

いちばん心にとったのは、大きな海ガメが、太い首にも前の足ヒレにもプラスチックのつり糸が何重にもからみついて、くるしくてとてもいたそうだったところです。

そのプラスチックのつり糸は、だれがすてたりおいたりしたものだと思っ**て**ぼくは**い**けない**と**思いました。

ぼくは、このお話を**読**んで、物をすてたりおきつばなしにしたりしない人になります。また、あゆむくんのようにちらばっているごみを、ごみばこにちゃんとかたづけられる人になりたいです。そうすれば生き物も人もよろこぶ**と**思**い**ます。



【親】「この物語を読んでどう思った？」

【子】「あゆむがつかさの島に行つて、自ぜんのすばらしさを感じたんだと思うよ。」

【親】「そうだね。あゆむは東京に住んでいるのだけど、お母さんに赤ちゃんと生まれるから、その間はいとこのつかさたちがいる沖繩に**来**れたんだよね。ふだん住んでいるところとは全く違う自ぜん**い**つば**い**の**い**い**所**みたいだね。」

【子】「うん。でも、あゆむは海ガメがくるし**そ**う**に**して**る**の**を**見**て**、**は**ら**が**立**つ**た、その心**が**い**い**と**思**つたり、さいごのさくら**が**さい**て**いる道**に**ご**み**が**す**て**て**あるの**を**見**て**、ご**み**ば**こ**に**す**て**た**り**す**るの**も**かん**き**よう**に**い**い**な**と**思**つ**たよ。」

【親】「うん。これらの自ぜんや生き物は人間によって**良**くも**悪**くもな**つ**ていくよね。あなた**が**できる**こ**と**つ**て**ど**ん**な**こ**と**がある？」

【子】「私にできる**こ**とは、ポイ**す**ては**環**境**に**と**つ**て**悪**いし、生き物**が**ま**ち**が**え**て**食**べ**る**と**い**け**な**い**の**と、生き物**を**大**切**に**す**る**気**持**ち**や心**を**も**つ**た**ら**い**い**と**思**うな。」

【子】

このお話は局長さんが、仙人が原まで行ってぐうぜんミケネコに会い、そのミケネコがネコの国へ手紙を送ろうとしたその時、ゆうびん車にのっていたネコが、局長さんがかっていたネコのタマスケだったというお話です。局長さんのかっていたタマスケは死んでからネコの国に行つたと思います。理由は、ネコは死ぬ前に人に見せたくないから勝手にきえろと本に書いてあったのですが、それは分かってません。でもぼくはそう思いました。

【親】

局長さんが手にした不思議な手紙が、ネコの国へ行つてしまったタマスケと再会させてくれる、奇妙で心あたたまるお話でした。目の前からいなくなつてしまった大切な存在と再び繋がりたい、幸せに暮らしているか知りたいという思いは人もネコも同じだなあとしみじみと感じました。

台風が接近しているお盆の最中にこのお話を読んでいます。

私の父は息子と会うことなく他界したのですが、子ども好きの父はきつと息子とおしゃべりをしたり、一緒に遊んだりしたかったことでしょう。こんなゆうびん車があれば、おじいちゃんともまごの楽しいやりとりができたかもしれません。素敵なお話でした。



【子】

私がえらんだのは、「ニライ・カナイの海」の本です。この本はあゆむが、さんごしように行き、つかさたちと会って、くるしんでいるかめを見かけました。そしてじゅういさんにあずけて、なおしてもらいます。私が感動したのは、あゆむの心です。くるしんでいるかめを見つめて、あゆむは、「海で生きていろんなことを知ってただろうに、ひどいことをした人にくやしくて、はらが立つ。」と思いました。人には、自分じゃなかったらどうでもいいという考えをする人もいます。それを知っていてもあゆむはみんなながされず、正しいことをしています。それにおちていたゴミも自らほかの生き物のためにひろっていました。私も人のことを考えて、自ら動けるようにど力します。

【親】

この本を手にとった時の印象は、結構長いので読めるかなと少し心配になりました。しかし娘は場面や様子をしっかりと想像していましたし、わからない言葉があればすぐに質問してくれました。すぐに答えてあげられず、一緒に調べ、ハラハラドキドキでしたが、娘の成長を実感でき、とてもうれしかったです。貴重な機会となりました。ありがとうございます。

- 【親】「バンビはどんなお話だった？」
- 【子】「主人公のバンビがうまれてから、森の王様になるまでの話だった。」
- 【親】「一番いんしょうにのこったところはどこだった？」
- 【子】「自分がけがをしてもフアリーンを助けてかっこ良かったところ。」
- 【親】「そうだね。あればれ者のロンノとたたかかった時も、りよう犬に追いつめられた時も、自分より強そうな相手に立ち向かってフアリーンを助けていたよね。あなたならできそう？」
- 【子】「ぼくはケガしたくないのでにげたいなあ。」
- 【親】「そうだね。痛いのはいやだもんね。でも困っているだれかを助ける気持ちが大切な事はわかる？」
- 【子】「それはわかるよ。」
- 【親】「バンビは、みんなを助けるゆうかなんな王様になったんだろうね。」
- 【子】「森のみんなは、安心して森で楽しくすごせるんだろうなあ。」
- 【親】「あといろんな音の表現が出て、光景が想像しやすかったね。」
- 【子】「トントンはとんすけが足をふむ音。バンツ！は鉄砲に打たれた音。サクッサクッは雪の上を歩いた音。ガキツガキツは角と角がぶつかり合った音。ドッポーンは高い所から水の中にとびおいた音。」
- 【親】「あなたもふだんの生活の中で音を文字にかえてみると楽しいかもしれないね。」
- 【親】「最後にバンビにとって人間ってどんな風にならうっているのかな？」
- 【子】「こわいものだと思う。理由はバンビのお母さんをころしたり、森を火事にしてしまったりしたから。」
- 【親】「人間も生きてく上で動物をころさなきゃいけない時もあるけど、むやみにころしてはいけないよね。あと火事は森林や他の動物もいなくなってしまうからせつないに起こしてはいけないことだね。」
- 【子】「人間も動物も仲良くくらせるようになればいいなと思ったよ。」
- 【親】「そのためには、あなたはどうすれば良いと思う？」
- 【子】「動物をたくさんころさない。えさになる木や草をたくさん切らない。森にゴミをすてたり、火事になるようなことをしたりしないようにする。」
- 【親】「子どもも大人もみんなが大切にしなければいけないことだと思うよ。一人ひとりが少しでもそのことを思って行動できればいつまでも動物たちと仲良くくらしていけるだろうね。」

【子】私はバンビの本を読んで思ったことが三つあります。一つ目はバンビのお母さんが死んじゃって、とってもかわいそうだなと思いました。理由は、お母さんが死んだときなくて、すつごくかなしんでいたからです。

二つ目はバンビがしあわせになつてほしいなと思いました。理由は、バンビは森が火事になったり、ママが死んじゃったり、かわいそうなお母さんをたくさんしてきたからです。

三つ目はフアリーンをたすけたバンビはやさしいんだなと思いました。理由はやさしくない人は、フアリーンをたすけないんじゃないかと自分なら思ったからです。私は、バンビの本を読んで、バンビはかなしいことがいろいろあったけど、とってもやさしいきものだということが分かりました。

【親】バンビの本を読んで、先日娘が初めて飼ったペットのハムスター「ココアちゃん」のことを思い出しました。生き物は、人間も含めて、必ず生があれば死がおとずれます。もう一緒に遊ぶことは出来ないけれど、楽しかった、可愛らしい姿を見せてくれた想い出は一生消えませんが、娘にも、一度しかない人生を思いっきり楽しんで、周りの人へは、バンビのように優しく接して助け合って生きて欲しいです。

